



2022年11月11日

チッソ株式会社 総務部

2023年3月期 第2四半期決算 補足説明資料

◆チッソ連結業績

Q1. チッソ連結業績における売上高、経常利益それぞれの対前年比増減要因。

A1. 売上高：増収

決算短信（P2、P3）および決算説明資料（P12～P18）に記載のとおりです。

経常利益：増益

決算短信（P2、P3）および決算説明資料（P12～P18）に記載のとおりです。

Q2. 第2四半期決算の連結売上高推移。

A2. 売上高の詳細は説明資料P8、P9をご覧ください。

Q3. 第2四半期決算の連結経常利益推移。

A3. 経常利益の詳細は説明資料P8、P9をご覧ください。

Q4. 第2四半期決算の連結営業利益推移。

A4. 20年から3期連続の黒字です。

17年：6億09百万円、18年：△14億48百万円、19年：△3億84百万円

20年：17億66百万円、21年：35億07百万円、22年：51億61百万円

Q5. 第2四半期決算での連結純利益推移。

A5. 21年度に続き2期連続の黒字です。

15年：33億59百万円、16年：△28億05百万円、17年：△7億84百万円、

18年：△24億14百万円、19年：△69億23百万円、20年：△12億27百万円、

21年：109億74百万円、22年：47億68百万円

Q6. 業績回復策。

A6. 中期計画の各施策を確実に実行してまいります。

Q7. 為替による影響。

A7. 連結) 12億58百万円の差益となりました。 ※参考：前年同期：79百万円の差益。

単体) 4億46百万円の差益となりました。 ※参考：前年同期：34百万円の差益。

※単体：チッソは事業活動を行っていないため、JNC 単体業績によるものです。

Q8. 液晶事業の今後の展望。

A8. 新型コロナウイルス感染症の影響による巣ごもり需要は終わり、足下ではパネル価格も下落傾向となっています。今後も厳しい状況が続くと予想していますが、引き続きコスト削減を継続するとともに、ナビゲーションやインパネなどの車載向けや、その他の非ディスプレイ用途の開発を進め安定した収益確保に努めてまいります。

裏面につづく

Q 9. 有機EL事業の今後の展望。

A 9. TV用は前期比で販売増となっており、モバイル向けは安定的に推移しています。今後も有機ELが採用されるデバイスも増えてくると考えられますので、引き続き拡販に取り組んでまいります。

Q 10. 期待する新規事業。

A 10. ポリリジンの抗ウイルス剤（2022年9月9日 HP 掲載：非食品分野への展開）、高速通信分野（通信機器のアンテナ基板など）、半導体関連分野、下水中の新型コロナウイルスの磁気分離技術（2021年12月16日 HP 掲載）などに期待しています。

◆JNC単体業績

Q 1. 2022年度通期見通しを受けて水俣病患者補償への影響を懸念。

A 1. 2022年度の水俣病患者補償原資は、2021年度のJNCの業績に基づくJNCからの配当で確保しており影響はありません。2023年度も確実に補償責任が果たせるよう、事業運営を行ってまいります。

Q 2. 年度経常利益の通期見通し。

A 2. 決算短信表紙P3をご覧ください。JNC単体経常利益見通しは25億円としています。

Q 3. 業績は回復傾向と理解するが、経常利益53億円を超えるのはいつ頃か。

A 3. ウクライナ情勢の長期化による影響、原料価格高騰など、取り巻く事業環境は厳しい状況が今後も続くと思われまます。各施策を講じて早期の収益回復に努めてまいります。大変申し訳ありませんが、現時点で明確な時期をお答えする事はできません。

◆新型コロナウイルス感染症の影響

Q 1. 業績への影響。

A 1. 昨年までのような、巣ごもり需要等はピークアウトしており特需的な要因はなくなっています。

◆水俣病関係

Q 1. 被害者救済一時金の第2四半期までの支払人数及び累計人数。

A 1. 2022年度第1四半期から第2四半期までの支払実績はありませんでした。これまでに支払した累計人数については、当社からお答えする事はできません。

Q 2. 2022年度の水俣病患者補償および公的債務償還について。

A 2. 患者補償はJNCからの配当で確保しますので問題はありません。

公的債務償還は、2021年度のJNC単体経常利益が25億円であったため、抜本支援策の返済算式によって決定される公的債務返済額が算出できずゼロとなり、全額支払猶予を講じていただいております。引き続き業績回復に努めてまいります。

以上